

佳作

水泳大会を目指して

埼玉県秩父市立西小学校六年 熊野みのり

あと30m、29m、28m、27m、26m。息つきをするごとに自分がゴールに近づいている事がわかって、うれしくなってくる。調しに乗ってターンでおもいきりかべをかけた。(よし、ターン成功!)心の中でガッツポーズをする。ふだんよりはやくなった気がして、息つぎの時に横を見ると、意外に他の人よりおくられていた。あわてて足と手をもっと動かす。どんどん進むけど、その分苦しくなってきた。残り10mぐらいになるともうげん界だった。でも、ペースダウンはしてはいけない。それでも他のみんなよりはおくられていたけど、必死で水をかいて、足をバタつかせた。息も、はらいっぱいに吸いこんだ。もう無理してでもいいから自己ベストを出したかった。

最後の力をふりしぼって、ようやくかべにタッチした。うれしくって思いっきり顔を上げると、目の中に水が入って、ぼんやりして何も見えなかった。

急いでプールからあがろうとすると足が少し痛くて、息も荒くなった。でも、なんだかスキップしたいような気持ちだった。とにかく、50m立たずにやりきれたことがうれしかったのだ。

わたしは、五年生まで水泳があまり上手くなかった。いくらがんばっても25m以上泳げないのだ。でも、六年生では絶対に50m行きたかった。水泳大会に行きたかったのだ。なにかスポーツの事でおねをはっていえるような事がほしかったのだ。

でも、選手を決める日に上手く泳げなか

ったので、無理だと思っていた。ところが、選手こうほとしてやってみないかといわれた。うれしくて、なんでも顔がにやけた。

朝練は大変だったし、タイムもなかなか縮まらなかったけど、正選手になれるようにと願いながら、がんばった。

すると、本当に正選手になった。あきらめないでがんばってよかったと思えた。

クロールの50mをやる事になってからはクロールばかりでいつも練習が終わるとバテバテだった。

一番苦労したのは飛びこみだ。高い所からの飛びこみができなくて泣きそうになった事もあったけど、一番最後の日になると楽に出きるようになった。今までがんばったかいがあったと、とてもうれしかった。

思うと、いろいろめんどくさい事もあったし、つらい事もあった。でも、そのつらい事があったから、選手になれたんだろう。こんなにうれしく思えたんだろう。

けっきょく、自己ベストはとれなかった。とてもくやしかった。そして、こう思った。

(中学のプールがどんなものかは知らないけど、来年、そこで泳ぐ事になったら、だれよりもはやく、きれいに泳ごう。)

だからわたしは来年の夏が待ち遠しくたまらない。